

# 子宮頸がんを予防しましょう

名古屋掖済会病院

産婦人科部長 <sup>み</sup>三 <sup>さわ</sup>澤 <sup>とし</sup>俊 <sup>や</sup>哉

## 子宮頸がんとは？

子宮頸がんは、子宮の入り口である子宮頸部にできるがんです。子宮体部に生じるがんは子宮体がんと呼び、全く別のがんです。

日本では若い世代を中心に子宮頸がん罹患される方と死亡される方がともに増えており、年間約 15,000 人の方が罹患し、約 2,500 人が死亡されています。20-30 歳の婦人では最も多いがんであり、このことが妊娠前に子宮の摘出が必要になるといった悲劇につながっています。また、30 歳代で死亡される方がこの 20 年間で約 2.5 倍に増加しています。

子宮頸がんの原因は後述するように、性行為で感染するヒトパピローマウイルス (HPV) です。性経験の低年齢化がこのような若い世代における子宮頸がんの増加につながっていると考えられます。高校女子の性交経験率は、1990 年以後の 12 年間で約 3-4 倍に増加しているのです。また、20 歳代の子宮頸がん検診受診率が極めて低い (20-24 歳で 5.6%、25-29 歳で 16.3%) ことがさらに早期発見を困難にしています。

## ヒトパピローマウイルス (HPV) が原因です

1980 年代にヒトパピローマウイルス (HPV) が子宮頸がんの原因であることが発見されました。約 100 種類ある HPV の中

で発がん性を有するタイプはハイリスク型と呼ばれ、約 15 種類が確認されています。ハイリスク型 HPV に持続感染すると、数年から数十年をかけてまれに (約 0.15%) 子宮頸がんをおこします。ただし、HPV はありふれたウイルスであり、性経験のある婦人は約 80% が感染した経験をもつと言われ、一時的な感染は特別なことではありません。

## 子宮頸がん検診による早期発見と予防が可能です

初期の子宮頸がんや前がん状態 (異形成) では不正性器出血などの症状はありません。子宮頸がん検診を行うことにより、子宮頸がんの早期発見や、異形成の状態での治療することによる予防が可能となります。

また、子宮頸がんの原因であるハイリスク型 HPV 感染の有無は、子宮頸管を擦過して行う HPV-DNA テストで検査することができます。病院で検査していただくか、自宅で行える自己検査キットも販売されています。

現在、日本では子宮頸がん検診の受診率が欧米諸国 (70-80% 以上) と比較して約 25% と低い状況です。このように検診の受診率が低いことが子宮頸がんの罹患率や死亡者の増加につながっていると考えられます。各市町村で公費助成による子宮頸がん検診が導入されていますので、ぜひ 2 年に 1 回の受診をお勧めします。

## HPV ワクチンによる予防が可能です

2009 年からハイリスクの HPV16 型、18 型の感染を予防する HPV ワクチン（サーバリックス）が認可されました。その特色として

- ① 初回、1 か月後、6 ヶ月後の 3 回の接種が必要です
- ② HPV16 型、18 型による子宮頸がん（全体の約 60%）を予防できる可能性があります。
- ③ 抗体の持続は 20 年間と予想されています。

現在はワクチンの輸入量が不足しており、中学生・高校生への接種が優先され、その他の新規接種はお待ちいただいている状況です。しかし、近日中には供給量も安定すると思われます。また、外国で使用されている、HPV16 型、18 型とローリスク HPV（コンジローマなど良性腫瘍の原因となる 6 型、11 型）に対するワクチン（ガーダシル）が国内で認可される日も近いと思われます。

## これからの子宮頸がん予防と治療は？

現在は HPV16 型、18 型以外のハイリスク HPV の感染も予防できる多価ワクチンの開発が進められています。これが実用化されると、より多くのハイリスク HPV の感染が予防されます。また、感染した HPV ウイルスに対する治療ワクチンも開発されています。これが実用化されると、感染したハイリスク HPV を取り除くことが出来ます。これらのことが子宮頸がんの減少につながると考えられます。

現状では図にお示したように、①若い世代の婦人を中心とした HPV ワクチンの接

種により約 60%の子宮頸がんは予防できる可能性があります。②HPV-DNA テストを行うとハイリスク HPV 感染の有無が判定でき、子宮頸がんに対するリスクを判定できます。また、③20 才以上の婦人は子宮頸がん検診を受けていただくことにより、前がん状態で発見して治療することができ子宮頸がんの予防が可能となります。このシステムを活用して、貴方やご家族を子宮頸がんから守ってください。